

# 平成25年度 新潟市総合学習部 活動報告

部長 藤崎 直子（桜が丘小学校）

## 1 研究主題

子どもが自ら探究する総合的な学習の時間の創造

## 2 研究の概要

子どもの主体性をさらに生み出すためには、子どもの思考を可視化することが重要である。探究的な学習の各過程（特に、整理・分析場面）で、「思考の可視化」（付箋の活用、ファシリテーショングラフィックの活用、ワークシートの活用など）を通して、子どもがどのように情報を整理・分析していくと、より主体的に子どもが考えていくようになるかを中心に研究してきた。

今年度は、今までの研究を分析し、思考の可視化の有効性について整理した。それらをもとに研究の概要、有効な手だてなどの成果と今後の課題を明らかにすることができた。

## 3 研究の実際

- 7月 全体研修
  - ・研究発表会の内容検討
- 8月 全体研修会
  - ・研究発表会の内容検討
- 8月 新潟市小学校教育研究協議会で研究発表
- 9月 全体研修
  - ・11月の研究授業の内容検討
- 11月 研究授業1
  - ・4年「追跡！ ごみ調査隊 ～未来を考えよう～」  
授業者 金塚 博子 教諭（上所小学校小学校）  
指導者 新潟市立新関小学校 校長 田村 篤 様
- 12月 講演会
  - ・講師 長岡市国際交流センター センター長 羽賀 友信 様  
演題 「生きる力を育む国際理解教育」～今、先生方に伝えたいこと～
- 1月 全体研修
  - ・講師 新潟市立竹尾小学校 校長 中村 芳郎 様  
演題 「総合的な学習に期待すること」  
・今年度の研究の成果と課題，次年度の方向の検討



## 4 成果と課題

- これまで取り組んできた研究について、「思考の可視化」をキーワードに研究の方向を焦点付け、発表会に向けて何度も全員で授業分析や発表内容について検討し、共通理解を図って発表に臨むことができた。
- 「思考ツール」（付箋，ファシリテーショングラフィック，ワークシート）を用いることは、子どもたちが拡散した情報や自分の考えを整理し、次の活動に向けて見通しをもつことに有効であった。また、教師が整理・分析の視点を提示することで、子ども同士のかかわりが活発になり、多様な考えを知り自分の考えを再構築することにつながっていた。
- 今後は、子どもたちの主体的な学びをみとり、学習活動を改善するために評価をどのように設定していくかを追求していく。